

会議等名	平成 31 年第 1 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 31 年 2 月 20 日 (水) 14 : 00 ~ 16 : 00
場 所	海老名市役所 6 階 第 2 委員会室
出席者	外部評価委員：田中委員長、城向副委員長、大島副委員長、高橋委員、霜田委員、杉山委員、菅生委員、谷村委員、西海委員 (以上 9 名出席) 欠席：長谷川委員、武井委員、山田委員 事務局：川崎政策経営係長、國本
<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 田中委員長</p> <p>3. 議題 (進行 田中委員長)</p> <p>(1) 平成 31 年度の外部評価について</p> <p>○平成 31 年度の外部評価について、対象事業の選定結果等を事務局から説明。</p> <p>(外部評価委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの会議で出ていた意見としては、「評価のコメント (現状継続等)」、「評価のフィードバック」、「ヒアリングの方法」の 3 点が良く出ていた。特に、2 点目の「評価のフィードバック」については、秋に出された事業所管課による「次年度への取組」が、外部評価結果とズレており、P D C A サイクルが回っていないのではないかと、疑問が残る。 ・来年度、これまでに評価したものを再評価しても、新総合計画になってしまうと、評価結果を生かすことができないのではないかと、次は予算ベースで事業を評価するようになると、イメージが湧かないなかではあるが、事業間でリンクされるのか不安はある。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに市が行ってきた事業は、新総合計画において大きく変わるという認識は持っていない。予算事業で事業を捉えたり、新総合計画において目標設定が変わることはありうるが、今後も事業は継続されるものが多いため、評価は生かすことができると考えている。 ・大きく変わるとすると、資料 3 でお示ししている予算概要調書をベースにした評価調書に変化させることで、分かりやすい調書を目指すとともに、事務の簡素化を図る。 <p>(外部評価委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは事業全体を評価できていたが、新総合計画では事業間 (事業費が異なるもの) の評価が横断的にできなくなるのではないかと。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費が異なるものでも、例えば図書館事業をまとめて評価対象とすることで対応できると考えている。また、新総合計画においても施策は残るので、 	

施策評価を行うことで、事業を俯瞰的、横断的に見ていただけるものと考えている。イメージとしては、事業の施策に対するぶら下がり方が変わるものである。

(外部評価委員)

- ・ヒアリングについて、なくなっても負担軽減にはならないと思われる。また、不要なヒアリングをすることは必要ないが、職員の方も市民と直接話す機会として存在意義はあったのではないか。
- ・評価の齟齬をなくすためにも、評価時のヒアリングと評価後のヒアリングを2回実施することは、意義があると思う。

(事務局)

- ・最近のヒアリングを見ていると、ヒアリングがあるからそのための準備をするという状況が見受けられ、ある意味通過儀礼のようにになっている部分がある。そのため、ヒアリングを原則行わないとした趣旨は、全ての事業をヒアリングするわけではなく真に必要な事業についてヒアリングを行うとするものである。
- ・また、評価後のヒアリングについては、行う時期や役割分担などの理由により実施が難しい。PDCAサイクルのマネジメントに必要なとなれば、今後整理しなければならない。

(外部評価委員)

- ・やはり事前のヒアリングが必要だと思う。事業内容が分からないから直接聞く、ということでヒアリングが始まったと聞いているので、事業を限定してでも実施することがよいと思う。
- ・評価後のヒアリングについても、担当部課評価と外部評価の意見が分かれたものについて実施すると、事業の参考になるのではないか。
- ・ヒアリングを評価前と評価後で選択できるようにしたり、ヒアリング前後のスケジュールに余裕を作ってもらえると、評価前に事業の理解を深められるので、事務局で工夫してほしい。評価前に各グループで話し合い、ヒアリングの有無を調整してもよいのではないか。

(事務局)

- ・今年度は、評価事業数を全体的に減らしているので、評価の進め方についても試験的に取り組む時間ができると考えている。

(外部評価委員)

- ・過年度評価欄について調書に盛り込むのは、やはり難しいか。担当課が自分達で過年度評価を書くことで過去の評価を振りかえることができるし、仮に人事異動があったとしても、その事業がどのような過程を経て評価を受けたかが分かるので、評価に資すると思う。
- ・次年度への取組としてもらっているものは、平成26年度分からあるか。

(事務局)

- ・確認が必要だが、最近始めた取り組みなので、古い年度のものはないかもしれない。

(外部評価委員)

- ・一度評価した事業が多いので、最小限の資料や労力で取り組むべきである。

- ・一方で、外部評価委員会として評価したといっても、グループが異なると事業についても分からないので、簡単にはいかないと思う。
- ・せっきくの会議体であり市のためにできることは多分にあると思われるため、実り多き委員会の運用をお願いしたい。

(2) その他

○年間スケジュールの確認

(外部評価委員)

- ・新総合計画での意見聴取について、行財政改革推進委員会と外部評価委員会での意見はどのような位置付けになるか。

(事務局)

- ・事務局としては、それぞれの委員会で忌憚のない意見をいただくことを主眼としている。各委員会が出た意見は、都度情報提供させていただく予定である。

○次回外部評価委員会の日程調整

4. 次回日程

平成 31 年 3 月 27 日 (水) 14 : 30～
海老名市役所 3 階 政策審議室

5. 閉 会

以 上